ミニバスケットボール練習試合のお盆前自粛に関するお願いについて

　旭川ミニバスケットボール連盟に加盟する少年団指導者及び育成会役員の皆様におかれましては，日常から子どもたちの健全育成に向けて努力されておりますことに感謝申し上げます。

　また，幸いなことに，現在までこの地区内では，各学校や小学生，そして少年団に関係する感染者が一人も出ていないことは，各少年団がこれまで感染症拡大防止のために，皆様のご理解とご協力の上で，多大な我慢と対策をしていただいてきたことの賜物でもあると考え，お礼を申し上げます。

　さて，先日役員会の中で，今後感染症が収束に近づくにつれて，子どもたちの活動を徐々に再開し，８月末から９月にかけて，近隣学校でのリーグ戦（夏季リーグ）を夏の全道大会（予選）の代替大会として実施する旨のご連絡をさせていただきました。

しかし，現在の感染症の状況は，都市部を中心に感染者の増加が著しいことや旭川市内でも先週来感染者が確認されるなど，予断を許さない状況であると感じております。さらに，先週４連休の市内ホテルには，「ＧｏＴｏＴｒａｖｅｌ事業」を未使用での東京方面からの観光客も多く来旭していたことなど，心配な要素も頭を過るところです。

そこで，皆様にお願いがございます。

来週８月８日からは，地区内での練習試合を解禁することで，事務局会議でも決定し，その動きを承認していたところですが，ここのところの状況と体育館等借用の許可が可能かということに鑑み，お盆前に他の少年団の選手保護者が小学校等の体育館に入ることについて，時期の見直しを考えております。医療関係者の話として，「このお盆界隈（旭川市内だと８日～１６）の人の動きが，その２週間後に大きく影響する。」と話されており，２学期がスタートするころに何等かの感染者が出た場合，８日前後からの動きが原因と思われてしまう可能性もあると考えられるからです。

大会前に練習試合をさせたい気持ちは十分に理解できますし，ある意味，試合への慣らしも必要と考えます。しかし，今回大会こそが，勝ち負けを重要視しない慣らしの大会としての意味もありますし，何よりこの夏季リーグが「バスケットボールをできることを喜べる。子どもたちにとってバスケットボールを楽しめる大会」になったらと考えます。

指導者の皆様におかれましては，すでに域外のチームとの練習試合をお盆前に計画していた方もいらっしゃると思いますし，中学校の部活動がすでに練習試合等を行っているのに少年団がなぜ慎重なのかに歯がゆく思っている方もいるかと思います。

今，私たちが大切にしなければならないことは，この未曾有の感染症に対峙して，「人の命」を大切にすることはもとより，拙速な対応で万が一のことがあれば，子どもたちからバスケットボールをさらに遠ざけることになってしまうことを認識しなければなりません。

連盟各役員，チーム指導者及び育成会の皆様には，再度の我慢をお願いすることになりますが，なにとぞご理解の上，ご協力をお願いいたします。

令和２年７月３１日

旭川ミニバスケットボール連盟

会長　及川　勝也